

青森職業能力開発短期大学校主催セミナーの実施支援

「収益性向上のための現場改善マネージメント」セミナー

はじめに

T.M

青森職業能力開発短期大学校主催のセミナー「収益性向上のための現場改善マネージメント」が、2016年から毎年青森県内で実施されています。この度は、2018年11月8～9日にJESO講師2名の派遣により、産業技術センター八戸工業研究所で開催されたセミナーの概要についてご紹介いたします。

受講された方は、八戸、南部町、弘前、六ヶ所、五所川原からの12名（女性1名を含む）の方々でした。

セミナーのねらい

このセミナーは、参加型のセミナーで演習に全員が参加し、与えられた課題（生産目標：品質、数量、コスト）を決められた時間内で模擬生産を行っていきます。

この生産過程を通して、現場改善に必要な能力を習得してもらうことがそのねらいです。

実際には、受講者12名がAグループ6名、Bグループ6名に分かれ、それぞれに製造ラインを設定します。グループメンバーで話し合いをして、リーダーを決め、リーダーを中心に必要な役割と分担を決めて進めていきます。

演習は、これから取り組む課題について、どのように製造を進めればよいかをグループ全員で検討し計画（標準作業手順や標準作業書）を作成して、これを基に第一次生産を行います。

第二次生産では、第一次生産結果を基に、更なる生産向上を目指し検討を行い、改善計画を作成し、これを基に再度生産を行います。最終的には、第一次生産及び第二次生産を通して、生産演習の総括をグループ全員で行い、レポートにまとめ発表会で発表を行って研修を終了しました。

セミナーの習得と内容

研修を通して習得を期待することは、リーダー役研修者はリーダーシップとしての指示、統率の習得であり、作業員役の研修者は生産指示の下で、メンバーシップを発揮して生産・改善に取り組む実践・行動力の習得です。また、品質を改善し生産性及び収益性を向上するためには何が基になり、どのように進めれば問題の顕在化が図れるか、それに伴う自律的問題解決能力の習得が目的となります。

講義された具体的項目としては、ものづくりの基本的考え方、作業時間（タクトタイム）、作業分解、生産の4Mと標準作業、標準作業手順書、標準作業手順と標準作業の関係、作業編成と編成効率、5Sとムダ、ムダの考え方と発見、作業と安全・衛生などが挙げられます。

セミナーが終わって

この度の模擬生産演習では、第一次生産ではA、Bグループとも目標を達成できませんでした。

しかしながら、第二次生産ではAグループは目標を達成し、Bグループは目標の達成はで

きなかったものの、第一次生産結果よりはるかに改善が図られました。

受講生の皆さんは、グループ討議の中で積極的に意見を出し合い、問題解決に取り組んでおり、熱心な取り組み姿勢は、参加型研修の利点を十分に発揮されたと感じました。

研修終了後に受講生の方々に感想を聞いたところ、生産に関する多くの実践的内容を学んだことで、仕事に戻ってから十分に生かせる研修であったとのことや、また、会社全体でこの研修を受講したいなどの話がありました。



北工業団地内にある八戸工業研究所



第一次生産を行うための検討



第一生産実施中



Aグループ第二次生産に向け改善検討



Bグループ第二次生産に向け改善検討



研修まとめの発表会